

進捗状況の概要

本事業は、平成 26 年度から 6 年間にわたり実施し、本学のリベラル・アーツ教育の学修成果について、既存の指標の活用にとどまらず、独自指標の開発も含めて可視化することを目標としている。

平成 27 年度は、アセスメント・モデル構築の準備段階として、本学のリベラル・アーツ教育の成果を把握するために、直接的指標（GPA、TOEFL ITP 等のデータ分析、汎用的能力テストの実施により得る）と間接的指標（学修行動調査、卒業生アンケート、インタビュー等の実施により得る）について、IR 専門委員会による分析を行った。教育研究開発委員会では、アセスメント・ポリシー※を策定し、指標の開発を開始した。併せて、成績評価の平準化・厳格化のためのルーブリック作成、本事業の認識共有のための FD・SD 研修を実施した。具体的には、アセスメント指標開発をめざし、さまざまな指標を得るために、新たな外部テストの導入、卒業生や企業への調査等を実施した。学生に対しては、従来の TOEFL ITP、本学独自の学修行動調査の他、新 1 年次対象に汎用的能力を直接的指標により測定する外部テスト（PROG）、1、3 年次学生対象に間接的指標による教学比較 IRcommons 学修行動調査を実施し、PROG については学生個々にテスト結果をフィードバックした。さまざまな指標の分析を進めることにより、本学学生に強化が必要なスキル・能力が明らかとなり、今後の教育改革に活かすとともに、在学生による自己報告型の間接的指標の相対化が可能となり、新たな指標を開発・作成するための足がかりを得ることができた。成績評価の平準化・厳格化のためのルーブリック評価の導入については、平成 28 年度に運用を開始するための準備が整い、引き続き進めている FD・SD 研修等により、学修成果や質保証についての教職員の意識の改善が図られている。

- ・平成 26 年度 1 年次入学者より、入学時と 2 年次必修英語修了時に TOEFL ITP テストを実施することとし、初めての比較対象を行った。IR 専門委員会で分析を進め、自己点検・評価委員会、第一外国語（英語）運営委員長、キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員長にフィードバックを行い、教育改善に活かしていくこととした。
- ・平成 27 年度入学者より PROG テストを 1 年次と 3 年次に受験させて、汎用的能力、態度・志向の修得度を測定することとし、平成 27 年 4 月に 1 年次を対象に PROG テストを実施した。学生個々にテスト結果をフィードバックし、学生が自分の汎用的能力について傾向を把握し、今後の学生生活において自分で考え行動する基礎を築くことができるよう指導した。また、教職員が本学学生全体の汎用的能力の傾向を知ること、今後どのような教育をしていくことが必要か検討する機会となった。
- ・平成 27 年 11 月から 12 月にかけて、1 年次および 3 年次に複数の大学が参加する学修行動調査を行った。他大学の学生との比較をとおして、本学での学びがどのように学生の成長に繋がっているかを定量的・相対的に測定することが可能となった。
- ・平成 24 年度、22 年度、17 年度の卒業生に本学の教養教育の学修成果を問う調査を行い、本調査と並行して、本学の卒業生が就職している企業に企業調査を実施した。その結果、在学中の学習の動機づけの重要性が明らかとなり、具体的な教育改善への提言に繋がるとともに、本学卒業生が評価されている点が明らかになり、本学の教育成果を確認することができた。両調査結果の比較などから、企業の求める社会人基礎力と本学の教育成果とを比較し、さらに具体的な課題を把握する機会とした。

※アセスメント・ポリシー：東京女子大学は、建学の精神に基づくリベラル・アーツ教育の成果について、多角的観点から複数の指標に基づいて評価を行う。上記の評価は、エビデンスに基づいた教育改善を継続的かつ効果的にすすめることを目的とするものである。